

2019年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	教養ゼミ「シルシル信知るゼミ」を通して実現する主体的学修プログラム —高大接続の系統的な「信州学」を実践するための初年次教育—
実施組織 (または対象のカリキュラム)	教育学部
※連携する他学部・機関がある場合は記入	あがたの森文化館、開智学校、松本城、松本総合図書館
実施責任者(所属)	西 一夫 (教育学部)
取組の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域文化資産を活用したフィールドワークの実施 2. 主体的に課題と関わり、解決に導く協働性 3. 地域や風土への愛着を深め、高等教育における学修基盤の形成
<p>1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協働性を涵養するための組織作り 共同作業を行いながらフィールドワークに出かけることになるため、その関係作りを年度当初の授業で行った。内容は主に、①受講者同士が互いを知る、②目的を明確に把握して作業の過程を確認する、③チーム相互の関係性を理解して見通しを持つ。 2. 学習項目を明確に定めてのフィールドワーク フィールドワークを建築物との関係で以下のように設定した。 <ol style="list-style-type: none"> ① 松本城(信州の歴史) ② 開智学校(信州の教育) ③ 旧制松本高等学校(信大の歴史) 城郭建築や近代レンガ建築等の専門知識による講義(担当:山岸)をあわせて行うことで視察内容に広がりを持たせることができた。 それぞれの地域や歴史の特性を理解して主題に迫ることができた。 3. さまざまなツールを活用した学習計画の立案 <ol style="list-style-type: none"> ① 附属図書館でかいさいされた「知の森昼どきセミナー」(5/8:信大誕生、5/11:松高生の青春日記)を授業での学習として単位化 ② 大学史資料センター第 1 回企画展「信州大学今昔(いまむかし)」も授業での学習として単位化 ③ eALPS を活用してグループでの準備状況を把握 ④ 「博物館パスポート」の活用による入館料の無料化を実現 4. ポートフォリオの作成による学習成果の視覚化 <ol style="list-style-type: none"> ① リングファイルを活用して資料を整理してポートフォリオの作成 資料を見返してのリフレクションにおいて効果が認められた。また、最終レポートの作成においてもポートフォリオは有効であった。 ② 蓄積される知の体系と地域文化理解 地域文化資産を実施見学することによって、その特徴や地域との関連についての知見を深め、フィールドの松本に対する意識の向上が見られた(松本市出身者でもどのような傾向が見られた)。

③ 冊子としてまとめることで、受講生各自の学びの履歴を視覚化して捉えることが可能となり、交流場面や振り返り場面での活用が認められた。

<p>2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)</p>	<p>a. 達成できた b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった</p>	<p>(評価理由)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ内での作業を有効に進めるためのアイスブレイクに時間をかけたことが、最後まで有効な関係を維持できた(自己評価書)。 2. 視察先を固定したことにより、学びの履歴を追跡できた(ポートフォリオ)。 3. 学内の関連展示を授業として位置づけ単位化することへの見通しを持てた(学生からも評価が高い)。 4. 資料を蓄積することによって、学びを各自が確認できるようになった(他の授業にいても活用可能)。 <p>(今後の展望)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域組織(松本市教育委員会)との連携事業(博物館パスポート)を活用でき、今後さらなる活用方法について意見交換を行い、次年度に引き継ぐこととした。 2. 学内での関連事業を積極的に授業内容に取り込む道筋をつけた(周辺自治体の関連授業も同様)。
--	---	---